

1 学校教育目標

① なかよく ② げんきに ③ がんばる ④ 宮城の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	保護者、地域社会に信頼され、ともに歩む学校 ・地域に1つの小学校として、質の高い教育を提供し、誇りを感じることができる学校 ・児童が豊かな経験を積み重ねて、健やかに成長し、保護者から信頼を得る学校 ・児童も教師も保護者とともに学び、日々成長することができる学校 ・特別支援学級の設置校として、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の工夫ができる学校
○児童・生徒像	なかよく、元気に、がんばる 宮城の子・・・教育目標 ・なかよく・・・豊かな心、望ましい人間関係、社会貢献力 ・元気に・・・健康な心とからだ、基礎的生活習慣の確立、たくましい意志と体力 ・がんばる・・・確かな学力、問題解決能力と態度、創造力、表現力 ・宮城の子・・・自らの存在や学力に自信をもつ、地域への感謝と誇り
○教師像	児童、保護者、地域社会の期待と信頼に応える教師 ・児童の学力向上や体力向上のため、惜しまず力を注ぐことのできる教師。 ・一人一人の児童の人権を大切に、保護者、地域から信頼される教師。 ・課題解決のためにコミュニケーションを図り、全力で方法を見つけ、解決できる教師集団。

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

現状
 地域に1つの学校として、就学前からのつながりや、祖父母の代から本校に関わっているなどの特徴がある。そのため児童は、上級生がよき手本となり、下級生はそれを見習おうとする意識がある。教員は、ベテラン層は少ないが、中堅と若手のバランスがあり、円滑にコミュニケーションを図る事ができている。2年間のコロナ禍への対応で、従来の学校の諸活動ができなかったため、本校の良さの1つである「地域と連携した諸活動を通して、地域で育てること」が実施できていないため、改めて地域とのつながりを再構築していく必要性を感じている。引き続きサービスの厳正に努めコンプライアンスの徹底と風通しのよい円滑なコミュニケーションの2点を経営の重点としていく。

成果
 ○コロナ禍の下、国・算・理・社・英語(外国語)の主要教科の内容の指導を達成した。新しい学校行事の形を創造し、高い評価を得ることができた。
 ○服務事故0、いじめの重大案件0、不登校児童対策の改善、支援を要する児童への丁寧な指導、ICTの活用の充実などが推進できた。

課題
 ○学習規律の確立による授業への集中、忘れ物や遅刻などの生活習慣の改善を図る。
 ○一人一人に適した、学びの姿を確立する。AIドリルの活用を定着させたり、豊かな学びに繋がるタブレットの活用をしたりする。
 ○児童が成就感、達成感もてる学校行事を感染リスクを考慮した形で創設する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	SDGsへの関心を高め、実行する	○	○	○	○	○
3	体力の向上	○	○	○	○	○
4	保護者・地域との連携による教育の充実	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項-1		学力向上アクションプラン								
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題	達成度 ◎○△●				
授業力向上により、児童の学習意欲を高め基礎学力を向上させる。		・国語 80% 算数 80% ・低位層の児童を減少させ中位に引き上げる	国語 80.4% 算数 82.4%		低位層の引き上げ体制は継続	○				
B 目標実現に向けた取組み										
新・継	アクションプラン	対象実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
1 継続	教師の授業力の向上	①②④全学年、全教科 ③全学年 国語・算数	・毎日 ・毎週 ・毎月	① タブレットの活用を ICT 活用年間計画通りの実施 ② 毎日の授業観察と指導・助言 ③ 教科専門指導員による計画的な授業の立案と事後指導による授業力の育成 ④ 相互授業観察、自主授業公開の実施	週の計画・授業観察 児童アンケート	・実施率 100% ・授業で対話、振り返りの実施率 80% ・アンケート評価「授業がわかる」90%	・100% ・50% ・89%	・振り返りは Googleform を活用できた。	○	
2 継続	細やかな学力向上	①②③④⑤全学年 ④1年生 そだち	・通年 ・長期休業日前の月	① AIドリルの効果的な活用 ② 単元終了時のテスト結果分析 ③ 読書活動の充実 ④ 10ます計算 ⑤ MIMの確実な定着 ⑥ 放課後の個別補習 ⑦ 長期休業日の個別課題と学習教室の実施	・単元のまとめワークテスト実施 ・実施状況把握	・単元のまとめのテストで全児童 80 点以上または達成率 8~90% ・実施率 100%	・70% ・100%	低位の児童の底上げのシステム作り	△	

3 継続	補充学習の充実	①全学年 算数・国語 ②全学年 算数 ③全学年 算数・国語	・毎週 ・単元終了時 ・全ての 長期休業日	① AIドリルを活用した補充学習の実施 ②全学年の算数の単元終了時のまとめのテスト結果を管理職に報告し個別指導の実施 ③週1回の放課後の補充学習教室、長期休業中の学習教室を実施する。	・実施報告 (週の計画) (集計表)の提出	・実施率100%	・80%	・放課後補充の実施が少なくなった	△
4 新規	学習規律の確立	① 3年以上、 算数・国語 ② 全学年 全授業 ③ 全学年 週1回以上	・毎日 ・週1回	① AIドリルを活用した家庭学習 ② 学習ルールの確立、実行 ③ 宿題・自主学習ノートによる家庭学習の習慣の定着と「学びに向かう力」の向上を図る。	① 実施報告 (データ・週の計画)での提出 ② 管理職巡回 自己評価シート ③ 自主学習ノート	・宿題の実施率 100% ・ルール実行率90% ・自主学習の提出率 2～6年生 90%	・90% ・90%	・家庭学習について保護者への啓発が不十分	△
5 継続	中学校との連携した学力向上	① 全学年 ② 全学年、 ③ 全学年 ④ 全学年	・通年 ・毎月 (年4回) ・夏季休業 (5回)	①「ICTの授業で活用について」授業実践を通して研究する。中：3回、小：1回 ②足立スタンダードの徹底 ③「自主学習ノート」の定着 ④小中相互の教員が連携・協働	・年4回の講師を招聘した研究会の実施 ・授業観察(週の計画)の提出 管理職巡回	・実施率100% ・連携部会年8回	・100% ・80%	・一校対応で円滑にできた	○

重点的な取組事項－2		SDGsへの関心を高め、実行する			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「よく見る」「感じとる」そして、「実行する」児童の育成		・あいさつ運動実施率 100% ・SDGsへの意欲的取り組みの評価 90%	・100%	・初年度だがよくできた	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな人間関係の育成	いじめゼロ、不登校ゼロ(年度末に継続している件数)	・代表委員会のいじめ防止活動 ・集会活動、学校行事をコロナ対応バージョンに改善・実施 ・アンケート分析、SC、SSW等の効果的な活用と連携 ・特別支援教育の推進 ・なかよし学級との交流	・重大案件は0件 ・meetの活用が向上 ・特支の研修を実施 ・交流は5割増加	・迅速・組織的に対応できた ・特活は可能な形態で実施 ・担当教員の意識向上 ・さらに交流を深める	○
地域や近隣の河川の環境への関心を高める	① 5年生 ② 全学年 100%達成	① サケの飼育の活動を通して、荒川への関心を高める ②近隣の清掃活動を計画的に実施する一人一人の活躍の場をつくり自己肯定感を高める。	・サケは実施せず ・6年、3年の地域学習とSDGsウィークを「荒川」と位置づけた	・サケは発注忘れ ・SDGs「荒川」初年度スタート80周年を意識して実践を蓄積していく。	△
「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底	90%達成	・「いきいき生活頑張りカード」年2回実施(長期休業あけ)、 ・自己評価、保護者評価の向上	・90%	・長期休業明けの登校しぶりは少なくなった。	○

重点的な取組事項－3		体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力テストで都の平均を上回る		全学年が都の平均を超える	・50%	・コロナの影響	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上部会による体育授業の改善	・体育の授業に計画的に進め一人一人の児童の運動量を5%増やす	・体力向上部会が実態・行事に合わせ得た指導計画を立案し、実施する。 ・教材研究、授業準備を学年で検討する。 ・児童の運動量を随時測定し、統計資料化、情報共有し部会で対応策を実施する	・50% ・80% ・実施無し	・中学年で教科担任制を試行。体育専科として授業改善をした。 ・運動量の測定は無し	△
スポーツ指向の意識を高め、体を動かすことが好きな児童を育てる	「運動することが好き」の回答80%以上 ・学校2020レガシーを身に付ける	・体育朝会の創設 ・ストレッチ・コーディネーショントレーニング、体幹等のトレーニング導入 ・SDGsの視点からの運動を実施する。	・実施無し ・80% ・80%	【児童アンケート】 ・進んで運動する 85% ・進んでゴミ拾い 84%	○
体力向上部会による日常の体力向上策	・コロナ禍による運動機会の減少による基礎体力の低下を改善する。 ・測定時に平均以下の項目を年度末には平均を超える	・感染拡大防止を配慮した多様な遊びと運動機会の設定 ・泳力の低い児童への特別な指導の実施 ・遊具の効果な活用による運動量増加 ・担任が児童と共に運動する機会の増加 ・実態に合わせた実施内容の改善 ・3年ぶりの持久走記録会の実施 ・持久走記録会に向けた業間体育の実施 ・年2回のなわとび週間の設置	・実施無し ・100% ・80% ・100% ・100%	・コロナの影響 ・高学年20名で実施皆向上した ・休み時間の共遊び向上した ・持久走実施 ・なわとび実施	○

重点的な取組事項－4		保護者・地域との連携による教育の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
With コロナに対応した新しい活動の創造		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に配慮した、新しい形の行事を創設する。 ・2年延期した音楽会の実施 ・学校からの発信についてアンケート肯定的評価 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・90% ・音楽会実施 ・回答 83% 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を講じて行事を実施できた 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校行事の改善	アンケート・学校評価の肯定的評価の回答 85%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあっても、児童の表現力の育成や保護者の鑑賞方法を創設する。 ・運動会の練習時間の削減と午前中実施による児童の負担軽減 ・感染リスクを下げた音楽会の創成 ・開かれた学校づくり協議会、PTA 役員会による意見を丁寧に聞き、改善に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会は団体、表現、短距離走の三種を全て午前中で実施 ・5年ぶりの音楽会実施 	○
連携した諸活動の充実	地域の行事への参加 江南中学校との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・防災宿泊学習等の地域行事への参加 ・中学校の授業・部活・百人一首、合唱コンへ小学生が参加 ・小学校の補充教室・ソーラン、読み聞かせ中学生が参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・中止 ・中止 ・中止 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響 	×
保育園、幼稚園との連携	年間3回、各教員の研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の年間計画を作成し、情報を共有し、交流研修や公開保育の参観、学校行事への招待、園との情報交換を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・80% 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ影響計画した中で交流給食のみ中止した 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ウイズコロナとして、感染拡大防止に努めながら、教育活動を進めた。春の運動会は学級閉鎖があったため秋に延期した。結果として10月に運動会11月に音楽会、12月に持久走記録会と行事が重なってしまったため、児童の負担が多い状況となった。計画の見直しと効率的な練習計画を立てて、大きな問題も無く実施できた。運動会は地域のご来賓を招待できた。保護者は交代制であったが、多くの参観者があり、事後アンケートは概ね好評の回答であった。

学力向上は小中連携教育の授業公開と講師を招聘した年3回の校内研究で授業改善を図った。日常的には教科指導専門員による重点的な指導をより効率化するために、校長と教科指導専門員との情報交換を月に2回実施して、対象の教員の課題を明確にし校長の授業観察や週の計画の週案簿での指導を継続的に実施した。学習規律を向上させるために「整理整頓」を全校児童に講話として継続的に話すことで、学級によっては週末に学習道具を整理する時間を設定したが、全校には広まらなかった。今後も継続的に学習規律の向上が児童のよいよい学びの姿に繋がる。

体力向上は日常の運動の機会を増やすことで、コロナ禍出て行かした体力の回復をねらった。休み時間の遊ぶ回数を増やし、持久走やなわとびの練習を休み時間に行うことができた。また、夏季休業日中の水泳指導は中止したが、進学を控えている高学年児童の泳力の向上のために20名の児童を夏季休業日中に集めて、指導体制を整えて水泳指導したことで、参加児童全員が一定のレベルまで泳げるようになった。指導した教員もその結果を喜び、今後も継続していき対という意欲をもった。

生活指導や特別支援教育では、生活指導主任や特別支援教育コーディネータが積極的に推進し、組織を生かして取り組む形ができてきた。不登校対策委員会の立ち上げの進言や特別支援教育の研修会の実施、巡回心理士による研修会、SSWを校内委員会へ参加させるための連絡調整など自主的に進めることが多くなり、問題行動の未然防止や早期解決、発達障害についての理解の深化や支援体制の整備なども向上した。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

子どもたちは地域の宝であり、次の時代を切り開く貴重な人材です。コロナ禍で閉塞感に包まれ事で活力が失われたこともたちに明るく元気な笑顔に戻ってくるようにするために「ウイズコロナの中でどこまでできるか」を模索し、教職員一同が力を合わせて教育活動を進めてきました。運動会、音楽会、持久走記録会、5・6年生の自然教室など従前から実施してきた行事は全て行うことができました。その他に東京都の施策による「子どもを笑顔にするプロジェクト」を2回取り入れてスポーツチャンバラと演劇教室を行いました。

また、子どもたちに本物の芸術文化に触れる機会を多くするために東京芸術大学とのコラボレーションした「アートプログラム」を実施。なかよし学級では文化庁による「芸術家と子どもたち」を実施することで、一人一人の感性を呼び起こし、豊かな心の育成を図りました。地域の信用金庫からは行員として勤務されているオリンピアンへの派遣をしていただき、全校児童に大きな怪我にもくじけぬ不屈の精神をわかりやすくお話ししていただく事ができました。

SDGsの取り組みとしては、新しく行ったSDGsウィークで全学年が交代して毎月1回の南宮城公園の清掃活動と児童による挨拶運動を行い、サステナブルについての意識や人と人とのつながりを大切にしようとする態度を向上させました。昨年度行った荒川への鮭の放流は実施しませんでした。3年生は地域の交通や産業について実際に見たり、聞いたりする体験を重視したがくしゅうを行い、6年生は地域の商店と連携した地域学習「WISHプロジェクト」を創案して実施しました。来年は開校77周年となり、記念すべき80周年が見えてきています。地域との連携をさらに深め、地域に生きる子どもたちが、地域をより深く知り、関わり、将来は発展させていく人材となるよう今後も皆様のお力を借りながらより良い教育活動を推進していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

校長として着任2年目として、良い流れができてきた。足立区や関係機関など外部団体による教育的な活動については積極的に取り入れ、限られた予算の中でも「本物との出会い」「価値のある活動」を体験し、実感を伴った深い学びやコミュニケーションを経験するなど、学校の垣根を越えた大きなスケールの経験をさせることが、児童の無限の可能性を引き出し、飛躍的な成長させるための起爆剤になると考える。

今後、コロナ対策を行う中で様々な影響はあるが、可能な範囲で児童の学びの姿の向上や体力の向上、豊かな心の育成について、組織的に進めていくこと。そして、保護者や地域の方々、地域がもつ教育的資産を活用して、宮城小学校創立80周年に向けた教育活動の充実を図っていきたい。